社保庁解体と切り離せ、外来患者は増えている、３年連続黒字経営

三島社会保険病院の存続を！

社会保険庁解体による、三島社会保険病院の存続が危ぶまれている。

社会保険庁の不祥事や年金問題のあおりを受けて、この先、病院はどうなるのか、政府筋では二〇一〇年を目途に結論を出すような動きだが、未だ不透明だ。

最近、父親の入院により、初めて足を踏み入れた。朝十時頃出かけたが、噂では、評判が悪いため、外来は空いているとの事だった。しかし、実際は、駐車場は空きがないほど混んでおり、外来窓口は患者が列を成して並んでいた。待合室の長椅子に何とか座れたが、噂とは裏腹に、診察まで一時間以上待たされた。三島市民を中心に近隣市町村からも沢山患者が訪れている。実際は三島市民に取ってなくてはならない病院となっている。噂ほど当てにならないものはない。

病院関係者に存続問題について話を聞いてみた。存続の行方は、今は、社保庁の年金問題等の混乱で不明だが、独立行政法人に移行して存続の可能性もあるが、地域の評価やニーズに大きく左右されるようだ。また、救急指定病院、災害指定病院等の認定も受けており、公的病院としての性格も非常に高い。常勤医師は二〇名、病床は一六三床、一日平均外来数三百名とのこと。総工費は、土地代、施設建築費、医療機器全て含め八〇億円。現在、債務残高が8億円、これは平成二四年までに、社会保険病院本部に返却完了予定とのこと。また、単年度決算では、平成十六年より十八年まで連続黒字で、このところ業績は大幅に改善され、十七年度は七千万円の黒字だった。独立採算制で、年間収入は約二〇億円。これでは充分やっていけるのではないか。それと、もっと市民の応援も必要だろう。社会保険庁の年金不祥事に絡めて、変な噂を流すべきではない。病院は年金とは全く別問題だ。

【市政へ、市民の声】

一・三島市中の市営住宅に住む住民は高齢者が増えている。階段を登るのに不自由する、市に手すりを付けるようにお願いしているが、お金もかかり、順番があるので待ってくれといわれている。また、足が悪く、病院に行くのにタクシーで行かなければいけないが、市からタクシー代の補助は出ないのか？

二・西小の選挙投票所は、段差があり、障害者や車椅子の高齢者にはい行きづらい、特に、砂利道を通らなければならないので、車椅子の者は投票するなど言うようなものだ、何とかしてもらいたい。

交差点

日本の若者は何故政治に無関心か？

前号に、選挙での若者の投票率が悪いのは何故という記事があり、その訳を色々考えて見ました。

今、若者の間ではフリーターや「ニート」、「ネットカフェ難民」など大変な問題が起こっているのに、彼らは一向に怒らず、政治や社会がどうであろうと携帯とバイト、気の合う友達（恋人）さえいればそれでいい。半径一mほどの狭い世界で満足している人が多いように思えてなりません。誰が政権を取ろうと、どのような法律ができようと知らないし、関心がない若者がごく普通になっているように思えます。でも、世界中の若者がこんな感じかというと、そうでもない。例えば、最近フランスでは右派で知られるサルコジが大統領になりました。彼の就任式の日、多くの若者があのフランス革命発祥の地、パリのバスチーユに集結し、就任反対のデモを行なったという報道がありました。

これと関連して想い出すのですが、昨年、知人を介し、二三歳のフランス人の若者と話す機会がありました。その話しの中で、フランスの若者はヨーロッパや自国に対する「愛する」気持ちが、日本人の若者に比べ、大変強いことに内心感動を覚えました。そのような若者が数多くいることが、あのバスチーユの大統領就任反対デモの企画、運営に結びついていたのだろうと思います。

フランスでは高校で「哲学」が必修なのだそうで、このことも関係あるかもしれません。

日本では、子どもたちにファミコンや携帯など便利な品物と何不自由ない生活をさせ、受験につながる勉強だけをすればいいという風潮が強いようです。

でも、そのことによって、かえって自分の事にしか関心の向かない自己チュウな、自分だけが世界のすべてと思うような若者を育ててしまったのではないでしょうか。もっと、「世の中や世界は自分だけで動いているのではないよ、あなたは太平洋に沈む小石みたいにちっちゃな弱い存在なのだよ、だから世の中や世界のことを良く勉強しなければいけないのよ」というメッセージを送り、そういう教育を意図的にしなければいけなかったのだと思います。

今からだって遅くはないのだから、世の中と若者がどう関係しているのかを身を持って感じられるような、そういう取り組みを大人がしていくことが必要なのではないでしょうか。

— 一番町　梶原 —

初めての議会傍聴記

6／20～6／26

「9条ネット・静岡」発足集会

次期参院選に向け、全国の市民団体が集まり、「憲法九条を変えるな」との立場で、比例区（全国区）を中心に候補者を擁立している。

この動きは、自衛隊のイラク派兵に反対し、小泉首相に解任された元レバノン大使の「天木直人さん」等を中心に、各地の市民団体により、昨年頃から進められて来た。

三島市においても、その動きに呼応した有志によって、去る六月三日、「9条ネット・静岡」の発足集会が行われ、各地より四〇名の参加があった。集会では全国世話人の前田知克弁護士と静岡から立候補する「成島忠夫さん」も見え、選挙に向けた全国情勢分析や決意表明が行われた。また、公選葉書等も用意され、確認団体として「9条ネット」の宣伝を始める事が決定された。

連絡先は　九八七－二八一四

（仁杉）

【川柳　議会守評】

一・茶漬け食い「食育」うるさく言う　議員

二・うとうとと何時まで続く質問か

三・市長まで午後の議場は夢の中

四・議長とは目を見開いて寝る御仁

五・紋切りの役人答弁熱意なく

六・意地悪な答弁長々時間食う

— 暇人　傍聴者 —

四月の選挙で当選された二四名の市会議員のこれからの四年間に向けての初登板。質問に立ったのは十八名、新人五名は華々しくデビュー！

私は子持ちの主婦なので、時間により全ての傍聴は出来ませんでしたが、新人議員の質問を中心に聞きました。なんせ初めての体験、初日の緊張感ある議場へ入りましたが、何も分からない私、それでも結構楽しく拝聴しました。しかし、早速感じた一般市民の素朴な疑問。

その一・何故議会は午後一時からなの？（午前中から始めても良いのでは）

その二・傍聴席がガラ空き、市民は議会に興味無いのか？

政治の勉強をしてない私でも本当に驚くことが、他にもたくさ～ん！

傍聴席に声が聞こえない事もしばしば（どうも形勢が悪くなると、答弁に立つ市当局が多かった気もする）傍聴席の座り心地が悪い（直す予定らしいが・・・）議場も年季が入り、天井の板が浮いたりはがれ始めていたりする部分も・・・。

議員の質問要旨はこの紙面に掲載されているが、普段は市議会を初め、県議会、参議院（7月には選挙らしいが）、衆議院とはいったいどんな仕事をしているのか・なんて、気に留めることは少ないし、知らない。それで、世の中暮らして行けてしまうのだが、私は今回を機に傍聴フリークになるのも悪くないと感じた。

ギャラリーが見ていると自然に議員や市の当局も緊張感が出るようだし、質問内容や回答に耳を傾けるのも面白い。（意外とかけ離れている部分が出て来たり、おかしい、と感じることもあったり）。

子供も大きくなるとと共に、自分も歳を重ねて来たこともあり、政治が自分の生活の中に密着しているのだ、と感じることのできた時間でした。次回は友人を誘って来よ～う！

三島市で暮らす人々のために、政治に関わる全ての人が、力を合わせて頑張って進んでいくことを願っています。

P・S

市長に一言・・・三島の名物を「コロッケに・・・」なんてセンスは（・）目が点ですわ。

傍聴席より

三島在住　子沢山　CHIE

有象無象

▼年金問題や松岡大臣自殺問題、更には数を頼りの強引な国会運営、さまざまな問題が折り重なって、一時回復しかかった安倍政権の支持率は急落しました。

▼今、参院選を控えた自民党議員は浮き足立っています。昨年秋、小泉首相の後を継ぎ、毛並みの良さを売りに、貴公子よろしく登場した安倍政権でありましたが、今や小泉首相の威光は消え、森政権末期の様相を呈して来たと言えます。

▼格差社会に苦しむ国民をよそに、憲法改正を大上段に構え、岸信介の遺影を掲げるように、安倍政権は登場しました。「皇国日本」を再び蘇えらせるべく、これまで教育基本法の改悪、憲法改正手続き法や数々の悪法を強行可決してきました。そして、心ある国民は、安倍政権の強権タカ派的体質に危惧や不安を募らせてきたといえます。一方で、その強権体質に喝采を送る、ファシズム的兆候が現れ始めている状況でもあります・・。

▼支持率回復に、「強い安倍政権」を演出しようとした矢先に、早くもそのメッキがはがれ始めました。今こそ、大きなチャンス、次期参院選は、時代の大きな変節点です。「戦争か、平和か」「民主主義か、ファシズムか」時代は大きな変わり目に到来したと言えそうです。そして今、憲法が問われています。

▼憲法を新しく作ったり、大きく変える動きは、日本の近代史上三回目。明治維新の文明開化の時、第二次大戦後の混乱期、そして今日。時代は大きな転換期に入ったのではと思えますが、それにしてもこの静けさは何だろう。若者も老人も、みんな目を覚ませ、ワーキングプアからの脱出は、目覚めることからしか始まらない。

▼今、時代の大きなうねりをつくり出す、民衆の主体が問われているのではないでしょうか。古い政治構造を一掃する。そして、政治にもっと関心を向け、新しい時代を切開く力が、今必要です。